

森保監督（ サッカー日本代表監督）の言葉に学ぶ礼節とマナー

校長　新保　喜和

先日、校長会の機関誌「中学校」で、サッカー日本代表・森保一監督の「中学校教育に望むこと」というインタビュー記事を読みました。世界の強豪と戦い続ける監督の言葉の中に、教育の現場に示唆を与える話題が数多くあり、一中にもつながる部分があったので、二つお伝えします。

一つ目は、ルールについてです。監督が選手に課すルールは「時間を守る」「チーム内の問題はチームで解決する」「外部に漏らさない」の三つだけだそうです。いずれも、互いを尊重し合って快適に活動するための、絞り込まれたものとのことでした。

また、SNS についても、発信する前に一拍置いて「自分が発信した後、周りの選手がどう思うか」を考えるよう指導されているそうです。

これらのことには、「和を以て貴しと為す」という一人一人の個性を尊重する精神と、武士道の「礼に始まり礼に終わる」という心構えが基盤にあるそうです。監督は、礼儀や思いやりを重んじ、困難に粘り強く立ち向かい、勇敢でありながら謙虚であるそうした日本人の精神を選手たちに伝えており、その礼節こそ「日本人として絶対に譲れない部分だ」とのことでした。



二つ目は、「美学・美徳」についてです。ワールドカップでは、選手がロッカー室を「来たときよりも美しく」掃除し、折り鶴を残して帰ったことや、サポーターが

試合後に清掃をしたことが世界で報じられました。

アフリカでは「掃除を教えてほしい」と求められ、日本人教員が派遣されることもあるそうです。監督は、これを「日本にしかない美学・美徳」と言い、「協調性や礼節はまさに学校で教わったこと。学校で受けた教育が今の自分の土台だ」と語っています。

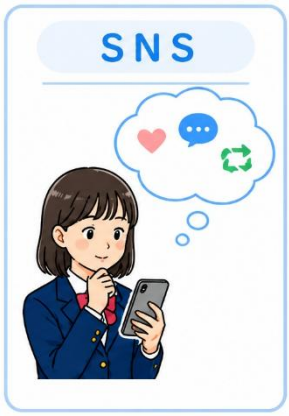
礼儀、時間を守ること、日々の清掃をきちんと行うこと、SNS で発信する前に一拍置くこと

森保監督の言葉には、一中生の生活にも通じるところがあります。

例えば、私は、一中生のあいさつに課題があると思っていますが、先日は、登校時、ポケットに手を入れたままあいさつをする生徒が多かった日があったので、手を出してあいさつをするよう、先生方から注意をしてもらいました。



また、廊下や階段の掃除が行き届いていないことがあります。これは、掃除する生徒の意識の課題なのか、現在の終礼後の掃除という時間帯や体制の問題なのか、見極めたいと思っています。



SNS のトラブルもあります。SNS だけでなく、友達と接するときも、相手が気分を害さないかどうかを考えて、言葉や行動を選ぶ必要があります。

10月の「枚方一中だより」でも伝えましたが、みんなが気持ちよく過ごせるよう、それぞれが、友達付き合いのマナーや学校のきまりをきちんと守り、当たり前のことを当たり前にする学校生活を送ってほしいと思います。

保護者の皆様へ

家庭でのあいさつや SNS のルールなど、日々のマナーの積み重ねが、学校生活の基礎となります。学校でも、お子さまの成長を支援していきますので、今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。